

terest. Grateful thanks are due to Dr. K. Subramanyan, Director, Botanical Survey of India, for criticism and advice. Our grateful thanks are also due to the Director, Botanical Gardens, Rio de Janeiro for his kindness in sending us the material.

Literature cited

Narayana, L. L. 1964. A contribution to the floral anatomy and embryology of Linaceae. J. Indian Bot. Soc. 43: 344-357. Narayana, L. L. & Rao, D. 1969. Contributions to the floral anatomy of Humiriaceae 1. J. Jap. Bot. 44(11): 328-335. — 1972. Contributions to the floral anatomy of Humiriaceae 3. (in Press). Rao, D. & Narayana, L. L. 1965. Vascular anatomy of Humiriaceae. Curr. Sci. 34: 383-384.

* * * *

Humiriastrum dentatum の花を解剖学的に観察した。5輪5数性。萼片は研究ずみの他属と異り、基部に融合が見られない。萼片に関係する葉跡は10個あり、交互に5個は中脈跡となり、他の5個は側脈跡となる。花弁は1葉跡。雄ずいの葉跡は2輪性で各5個。外輪の対萼位置の葉跡は各3個に分れ、15個の雄ずいに入る。中央の対萼位置の5個の雄ずいが最も長く、その左右の10個の雄ずいは最も短い。内輪の対花弁位置の葉跡5個はそれぞれ5個の雄ずいに入り、雄ずいの長さは中間。以上20個の雄ずいは単体であり、この内側に輪状の花盤があり、これには葉跡がない。子房は5心皮性、心皮には5葉跡があり、胚珠は1個、中軸性である。心皮の背部管束が花柱脈となる。

○高等植物分布資料 (80) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (80)

○ヒモヅル *Lycopodium casuarinoides* Spring 国立衛生試験所の佐竹元吉氏が長崎県西彼杵半島でヒモヅルを発見された由を聞いた。さっそく同氏に連絡したところ、詳細な略図を添えて発見地を示された。佐竹氏は昨秋、長崎大学での生薬学会に出席された際、西彼杵半島に行って、10月31日にこれを発見されたとのことである。1973年3月3日、示された略図をたよりに出かけて、現地をみることができた。氏の好意に深く感謝するしだいである。産地は西彼杵半島の北部で、大村湾に注ぐ大明寺川の左岸で西彼杵郡西彼町の雑木林内で、山間の廢田に沿うて200m余にわたってみられる。林床にはウラボシが密生している。ヒモヅルはリュウブ・コナラなどの裸木の樹上、高いところでは高さ5mばかりのところまでからみついて登っている。まさに大群落といえるほどである。 (外山三郎)